

年間予定表

日程	期	活動	講座名	会場	
2019年 7月20日(土)	第1期	活動①	〈徴しの上を鳥が飛ぶ〉オープニング講座	大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館	
2019年 7月30日(火)		活動①	能勢人形浄瑠璃鹿角座 「まちかね ta 公演 at 大阪大学」	大阪大学豊中キャンパス	
2019年 8月 3日(土)		活動②	〈徴しの上を鳥が飛ぶ〉連続レクチャー	大阪大学豊中キャンパス	
2019年 8月 4日(日)					
2019年 8月24日(土)					
2019年 8月25日(日)					
2019年 8月31日(土)					
2019年10月 6日(日)	第2期	活動③-1	メディアとしての身体	ロームシアター京都	
2019年11月16日(土)		活動③-2	ちんどん音楽と広告宣伝	大阪大学中之島センター	
2019年 7月20日(土)		活動③-3	アートの力が戦争と平和の問題を掘り起こす -四國五郎の世界-	大阪大学総合学術博物館	
2019年10月19日(土)		活動④-1	潮州歌劇を考える	ピッコロシアター	
2019年11月29日(金)		活動④-2	バックステージセミナー1	神戸新聞松方ホール	
2019年 9月 7日(土)		活動④-3	モダニスト M の新しきプロジェクト -森村泰昌との対話-	M@M (モリムラ@ミュージアム)	
2019年10月12日(土)		活動⑤-1	現代の身体と伝統の物語	伊丹アイホール	
2019年10月26日(土)		活動⑤-2	バックステージセミナー2	あいおいニッセイ同和損保ザ・フェ ニックスホール	
2019年 9月21日(土) 12月14日(土)		活動⑤-3	なにわ舟遊 ODYSSEY -大大阪の幻影をエコ・ミュージアムに探るアートの 旅-	乗船	
2020年 1月~2月、 2月22日(土)		第3期	活動⑥	滞在制作 (アーティスト・イン・レジデンス)	大阪大学豊中キャンパス
2019年 9月~11月頃 (調整中)			活動⑦	ポスト・プロダクションツアー	徳島県名西郡神山町
2020年 3月 7日(土)			活動⑧	〈徴しの上を鳥が飛ぶ〉クロージング・シンポジウム	大阪大学豊中キャンパス

連携機関アドバイザー

尾西教彰 兵庫県立尼崎青少年創造劇場(ピッコロシアター)演劇教育専門員
菅谷富夫 大阪中之島美術館準備室長・研究主幹
古矢直樹 吹田市文化振興事業団(メイシアター)常務理事・事務局長
松田正弘 浄るりシアター館長
宮地泰史 あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール
企画事業担当チーフ・マネージャー
本山昇平 豊中市都市活力部文化芸術課振興係長

事業担当者

永田 靖 大阪大学大学院文学研究科・大阪大学総合学術博物館(事業推進者)
伊東信宏 大阪大学大学院文学研究科(事業推進者)
渡辺浩司 大阪大学大学院文学研究科(事務局)
橋爪節也 大阪大学総合学術博物館
岡田裕成 大阪大学大学院文学研究科
高安啓介 大阪大学大学院文学研究科
古後奈緒子 大阪大学大学院文学研究科
伊藤 謙 大阪大学総合学術博物館
横田 洋 大阪大学総合学術博物館
山崎達哉 大阪大学大学院文学研究科(事務局)

濱村和恵 デザイン

主催:大阪大学大学院文学研究科

共催:大阪大学社会学創本部、大阪大学総合学術博物館
連携:あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール、大阪新美術館建設準備室、公益財団法人吹田市文化振興事業団(メイシアター)、豊中市都市活力部文化芸術課、浄るりシアター、兵庫県立尼崎青少年創造劇場(ピッコロシアター)、公益財団法人益富地学会館
助成:2019年度文化庁「大学における文化芸術推進事業」
協力:大阪大学21世紀懐徳堂



お問い合わせ: 〒560-8532 大阪府豊中市待兼山町1-5
アート・プラクシス人材育成プログラム事務局
お問い合わせ: tyamazaki@let.osaka-u.ac.jp
お問い合わせフォーム: <https://shirutori.org/contact>



大阪大学大学院文学研究科 主催
文学研究科におけるアート・プラクシス人材育成プログラム

徴しの上を鳥が飛ぶ

アートには無限の力があります。勇気づけたり、優しい気持ちにしてくれたり、また希望を与えてくれるでしょう。そんなアートは、現代のグローバル化する日本や世界を生きていく中では、ますます大切で有意義な営みとなっています。それは政治や経済、また産業や情報通信などにはできない力があるからです。しかしアートは逆に不安を掻き立てたりもすれば、なにか支配的な力となって私たちに圧力をかけてくることもあります。そこではアートはさすがしく、華やかなものというより、何か陰鬱で目を背けたくなるような闇の隙間を見せてくれるものでもあります。アートはこのような両義的な力をもって私たちの身の回りに偏在しています。私たちは自律した意識を持ってアートと向き合い、人間や世界の本当の豊かさについて知っていくことが求められているのだと思います。

今日、私たちが暮らす社会はもちろんのこと、私たち自身も、仕事、人間関係、政治、人種、国籍など、あるいは家族の過去、個人的な習慣、母語など、

第1期 セミナーとレクチャー

❁ 活動①「〈微しの上を鳥が飛ぶ〉オープニング講座」

アートが社会に成し得る可能性と今日的な意義と問題を学ぶとともに、本事業の理念(「アート・ブラクシス」能力のある人材育成と、人文学の研究成果を活かすアートの新たな可能性の探求)を共有します。

「まちなかね ta 公演 at 大阪大学」

「おおさかのてっぺん」にある大阪府豊能郡能勢町の伝統芸能・能勢人形浄瑠璃の鑑賞を通して学び、地域における芸能の持続可能性や課題について学びます。

開催日：2019年7月20日(土)、7月30日(火)

場所：大阪大学豊中キャンパス

講師：能勢人形浄瑠璃鹿角座、永田靖(大阪大学大学院文学研究科・大阪大学総合学術博物館)、伊東信宏(大阪大学大学院文学研究科)、渡辺浩司(大阪大学大学院文学研究科)、橋爪節也(大阪大学総合学術博物館)、岡田裕成(大阪大学文学研究科)、高安啓介(大阪大学文学研究科)、古後奈緒子(大阪大学大学院文学研究科)、伊藤謙(大阪大学総合学術博物館)、横田洋(大阪大学総合学術博物館・大阪大学大学院文学研究科)、山崎達哉(大阪大学大学院文学研究科)ほか

「まちなかね ta 公演 at 大阪大学」

「おおさかのてっぺん」にある大阪府豊能郡能勢町の伝統芸能・能勢人形浄瑠璃の鑑賞を通して学び、地域における芸能の持続可能性や課題について学びます。

❁ 活動②「〈微しの上を鳥が飛ぶ〉連続レクチャー」

アート・マネジメント基礎講座として、「文化政策の未来と問題点」、「マネジメントの理論と実践」、「アーティスト・イン・レジデンス等のアートの実際」の3カテゴリについて、ゲスト講師による講演を行います。

場所：大阪大学豊中キャンパス

・8月3日(土)

宮地泰史(あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール)

「音楽ホールの現場から ～あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホールの運営について～」

米屋尚子(公益社団法人日本芸能実演家団体協議会)

「文化政策の未来と問題点～芸術と公共性について考える～」

・8月4日(日)

杉浦幹男(アーツカウンシル新潟)

「地域アーツカウンシルの役割 ～2020年以降の地域における文化芸術振興～」

中西美穂(大阪アーツカウンシル)

「文化政策とアートの現場」

・8月24日(土)

橋本裕介(ロームシアター京都／KYOTO EXPERIMENT プログラム・ディレクター)

「インフラとしての舞台芸術フェスティバル」

久野敦子(セゾン文化財団理事)

「セゾン文化財団の試み」

・8月25日(日)

小堀陽平(一般社団法人ブリッジ理事／岩手県文化芸術コーディネーター)

「文化事業による〈まちびらき〉の実践」

杉本哲男(KAIR 実行委員会会長)

「神山アーティスト・イン・レジデンスについて(仮)」

・8月31日(土)

菅谷富夫(大阪中之島美術館準備室)

「美術館像の変遷—大阪中之島美術館の30年」

様々な「微し」に取り付かれています。このような「微し」なしには私たちは自分を見失い、居場所をなくしてしまいますが、この「微し」は同時に私たちを縛るものでもあるでしょう。(〈微しの上を鳥が飛ぶ〉というこのプログラムのタイトルは、この世界の、この私たちに取り付いている様々な「微し」から自らを解放することはできるのか、できるとすればどのようにか、その時世界はどのような姿を見せるのかという問いかけでもあります。このプログラムではアートの力を信じ、アートの力を通して、作る人も見る人も世界の多様性を理解し、そこに生じる軋轢や対立を乗り越えて、私たちのいわば「微しなき微し」を見出していくプロセスを探して行ければと思っています。

このプログラムは3年間のプログラムとして考えています。今年はその第1年目にあたりますが、まずいろいろなアートに触れることで、現代社会とアートの関係、現代社会をアートを通して考え直していく、そんなきっかけになればと考えています。

第2期 インターウィーク

❁ 活動①「対立と調停」

対立と調停

❁ 活動③-1「メディアとしての身体」

チョイ・カファイ(1979年、シンガポール生まれ)は、ベルリンを拠点にダンス、演劇、アート等様々な分野を自由に横断し活動。鑑賞するのは彼の最新作『存在の耐えられない暗黒』。舞踏の創始者である故・土方翼が送り得たかもしれない余生を探る本作に向けたリサーチでは、恐山のイタコによる土方本人の霊へのインタビューを敢行し、彼に新作ダンスの創作への参加を依頼します。

「亡霊による振付は可能か?」メディアとしての身体が、今日においてどのような可能性を持つのか、テクノロジーをある種“誤用”しながら展開する本作を通じて考えます。

開催日：2019年10月6日(日)

場所：ロームシアター京都 ノースホール

講師：チョイ・カファイ(アーティスト)、橋本裕介、古後奈緒子(大阪大学大学院文学研究科)

❁ 活動③-2「ちんどん音楽と広告宣伝」

様々な音楽や芸能の知識や技術をもとに幅広く活動するちんどん通信社は、自らの活動を「街角宣伝音楽隊」と称しています。音楽や芸能を活用する一方で、その活動が広告宣伝業であることを大切にしています。そのため、普段の活動は、ステージではなく路上での演奏パフォーマンスが主となっています。屋外で、歩きながら演奏を行うことにどのような工夫があるのかを伺い、劇場ではない場所での上演等について学びます。

開催日：2019年11月16日(土)

場所：大阪大学

講師：ちんどん通信社、伊東信宏(大阪大学大学院文学研究科)、山崎達哉(大阪大学大学院文学研究科)

❁ 活動③-3「アートの力が戦争と平和の問題を掘り起こす—四國五郎の世界—」

絵本『おこりじぞう』で知られる四國五郎は、シベリア抑留体験や、弟を失った広島原爆をテーマに、核兵器の恐ろしさ、平和の尊さを訴えつづけた画家です。大阪大学総合学術博物館で開催中の第22回企画展「四國五郎展～シベリアからヒロシマへ～」の会場に立つことで、アート(視覚芸術)がどのように人の心を動かすかを体験し、受講者各自の視点で、それのものたらすエネルギーのあり方を再確認する場とします。

開催日：2019年7月20日(土)

場所：大阪大学豊中キャンパス待兼山修学館

講師：橋爪節也(大阪大学総合学術博物館)

演劇、ダンス、音楽、美術などのアート作品や、アーティストとの対話を通して、3つのテーマ(対立と調停、アイデンティティの揺れ、物語の領分)について学習します。

アイデンティティの揺れ

❁ 活動④-1「潮州歌劇を考える」

シンガポールの潮州語による歌劇団「陶融儒楽社」の「ラーマヤナ」(Chua Soo Pong 作)公演を観劇し、そのレクチャー&ワークショップで学びます。このグループは1931年に誕生した劇団で、長らくこの地での潮州文化アイデンティティの構築に貢献しています。この劇団の活動を通して、多文化社会シンガポールの多重的なアイデンティティのあり方を知り、現代社会の多層性への認識を深めます。

開催日：2019年10月19日(土)

場所：ピッコロシアター

講師：陶融儒楽社、永田靖(大阪大学大学院文学研究科・大阪大学総合学術博物館)

❁ 活動④-2「バックステージセミナー1」

本活動では、「ヘーデンボルク・トリオ」の公開リハーサルに参加し、インタビューを行った後、トリオの演奏を聴きます。ヘーデンボルク・トリオは、ヘーデンボルク・和樹(長男ヴァイオリン)、直樹(次男、チェロ)、洋(三男、ピアノ)という三兄弟によるピアノ三重奏。スウェーデン人の父と日本人の母のもとに生まれ、両親から音楽の手ほどきを受けました。和樹氏、直樹氏はいずれもウィーン・フィルのメンバーであり、極めて高度で、親密な対話の作り出せる、現代屈指の団体です。また、日本語でメンバーと直接コミュニケーションができるという稀有の団体でもあります。彼らの日本でのマネジメントを担当している井原麗奈氏を招いて事前レクチャーも計画しています。

開催日：2019年11月29日(金)

場所：神戸新聞松方ホール

講師：ヘーデンボルク・トリオ、井原麗奈、伊東信宏(大阪大学大学院文学研究科)

❁ 活動④-3「モダニズムの新しいプロジェクト—森村泰昌との対話—」

森村泰昌は、自らが過去の名画や歴史的写真に扮して画面に入り込む作品で知られます。世界的に活躍するアーティストでありながらも、大阪を愛し、大阪を拠点に活動をつけ、昨年、地下鉄四つ橋線の北加賀屋駅の近くに、自身の美術館「モリムラ@ミュージアム(M@M)」を開館させました。同美術館を訪ね、他の作家の作品をモチーフに制作をつづけることによるアイデンティティの問題など、さまざまな現代美術の問題を語りあいます。

開催日：2019年9月7日(土)

場所：モリムラ@ミュージアム(M@M)

講師：森村泰昌、永田靖(大阪大学大学院文学研究科・大阪大学総合学術博物館)、橋爪節也(大阪大学総合学術博物館)

本プログラムでは、演劇、音楽、美術など多岐にわたる芸術や文化の諸理論、また諸相に具体的に触れることで、アートを展開する場や共同体の特性に応じて臨機応変に対応する実践的な「アート・ブラクシス」能力を養います。今日のアート・マネジメント人材に求められる、様々な課題への注意深いまなざし、その課題に向けたアートによる探求の試みを実践していける人を育成します。

1年を3つの期間に分けてプログラムを実施します

[第1期] セミナーとレクチャー：アート・マネジメントや文化政策について学ぶ基礎レクチャーの期間

[第2期] インターウィーク：アーティストとの対話などを通じてアートの事前・事後双方の扱いを含めて学習する期間

[第3期] 滞在制作(アーティスト・イン・レジデンス)：外国人アーティストの招へいと滞在制作(アーティスト・イン・レジデンス)を通じて実際に研修する期間

第3期 滞在制作

(アーティスト・イン・レジデンス)

❁ 活動⑤-1「現代の身体と伝統の物語」

物語の領分

❁ 活動⑤-1「現代の身体と伝統の物語」

伝統と現代の接点を探求する現代劇団「エイチエムビー・シアターカンパニー」の10月公演『忠臣蔵・破エートス／死』(くるみざわしん作、笠井友仁演出)を観劇し、アフタートークを通して演出家の考えを学びます。「忠臣蔵」という古典の物語と、この劇団が探求している独特の演技身体とが交差する舞台は、現代社会に散乱する「物語」との向き合い方や距離の取り方を考える上で示唆的なものとなるでしょう。

開催日：2019年10月12日(土)

場所：伊丹アイホール

講師：永田靖(大阪大学大学院文学研究科・大阪大学総合学術博物館)

❁ 活動⑤-2「バックステージセミナー2」

本活動でも公演の前に、その背景について事前にレクチャーを行い、さらに演奏を聴いた後、パフォーマーとの対話を行います。対象となるのは2019年10月26日(土)に予定されている郷古廉、加藤洋之の演奏会です。郷古廉は、極めてスケールの大きい若手ヴァイオリニストで、ハンガリーで学んだ加藤洋之との組み合わせで、国際的なレベルの録音(バルトークのソナタとパッサラの無伴奏ソナタを組み合わせたシリーズ3作)を発表してきました。今回、エネスクのソナタ録音に取り組む方針で、それと関連する演奏会が行われます。10月の演奏会では、終演後に受講生が二人の演奏家と話をする機会を作るほか、それに先立ち、9月1日にはその背景を解説するレクチャーも準備しています。

開催日：2019年10月26日(土)、(9月1日14時～事前レクチャー有)
場所：あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール
講師：郷古廉、加藤洋之、伊東信宏(大阪大学大学院文学研究科)

❁ 活動⑤-3「なにわ舟遊 ODYSSEY—大阪の幻影をエコ・ミュージアムに探るアートの旅—」

近代の版画家・織田一磨が「大阪市の美観は其大部分を数多き河筋に有すと称しても決して過言ではあるまい」とした水都大阪を船で廻ることで再発見する二つの小さな航海。中之島や道頓堀を巡る「水の回廊」から日本最大の都市であった「大 大阪」の時代を体感するコースと、港湾をダイナミックに横切るコースを計画しています。そこには、美術館の建物を飛び出してエコ・ミュージアムにつながる知的冒険の航路が開かれています。

開催日：2019年9月21日(土)、12月14日(土)

場所：大阪市内より乗船

講師：橋爪節也(大阪大学総合学術博物館)

本プログラムでは、大阪大学大学院文学研究科が主催し、大阪大学社会学創本部、大阪大学総合学術博物館との共催により、開講いたします。また本プログラムは2019年度文化庁「大学における文化芸術推進事業」による助成を受けております。本プログラムは、近隣の兵庫県立尼崎青少年創造劇場 ピッコロシアター、浄るりシアター、吹田市文化会館 メイシアター、あいおいニッセイ同和損保 ザ・フェニックスホール、大阪新美術館建設準備室、豊中市都市活力部文化芸術課などの芸術諸機関の協力を得て行います。

第3期 滞在制作

(アーティスト・イン・レジデンス)

❁ 活動⑥「滞在制作(アーティスト・イン・レジデンス)」

劇作家・演出家のソン・ギウンが新作戯曲を執筆し、約1ヶ月間滞在学习リディング作品を制作します。受講生はこの制作に関わりながら、舞台制作の実際に触れていきます。現代社会の課題を現代演劇がどのように受け止め、解決を探求するのか実践的に学びます。

開催日：レジデンス期間：2020年1月～2月、上演：2020年2月22日(土)

場所：調整中

講師：ソン・ギウン(劇作家・演出家)

❁ 活動⑦「ポスト・プロダクションツアー」

アーティスト・イン・レジデンスを長期間に渡り実践している、徳島県の神山町等を訪問・視察し、本事業における制作、制作過程、ポスト・プロダクションについて考察を深め、地域における芸術展開の実際を学びます。

開催日：2019年9月～11月頃(調整中)

場所：大阪大学～徳島県名西郡神山町

講師：山崎達哉(大阪大学大学院文学研究科)

❁ 活動①「〈微しの上を鳥が飛ぶ〉クロージング・シンポジウム」

1年間のまとめとして、レクチャー、鑑賞、ワークショップ、ポスト・プロダクション、上演、滞在制作などの様々な芸術体験や実践経験を振り返ります。

開催日：2020年3月7日(土)

場所：大阪大学豊中キャンパス

講師：永田靖(大阪大学大学院文学研究科・大阪大学総合学術博物館)、伊東信宏(大阪大学大学院文学研究科)、渡辺浩司(大阪大学大学院文学研究科)、橋爪節也(大阪大学総合学術博物館)、岡田裕成(大阪大学文学研究科)、高安啓介(大阪大学文学研究科)、古後奈緒子(大阪大学大学院文学研究科)、伊藤謙(大阪大学総合学術博物館)、横田洋(大阪大学総合学術博物館・大阪大学大学院文学研究科)、山崎達哉(大阪大学大学院文学研究科)ほか

活動③-1：Photo by Katja Illner

活動④-2：Photo by Katsuhiko ICHIKAWA